

氏名	久保田圭祐	部署	研究開発センター	職名	特任助教
研究分野	運動器理学療法, 基礎理学療法, 地域理学療法				
学位	博士 (健康科学)				
学歴	平成21年4月-平成25年3月 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 平成28年4月-平成30年3月 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 リハビリテーション学専修 平成30年4月-令和4年3月 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程				
経歴	令和4年4月- 埼玉県立大学 研究開発センター 兼 保健医療福祉学部 特任助教 令和4年12月-令和6年3月 埼玉大学大学院理工学研究科 特任准教授				
所属学会 (役職)	日本理学療法士協会, American physiological society, Osteoarthritis Research Society International, IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Society for the Neural Control of Movement				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Timed Up and Go (TUG) Predicts Changes in the Kihon Checklist After Six Months of Continuous Participation in “Kayoinoba”(Community Gathering Places)	共著	あり		Cureus 17(5)	Takashi Nasu, <u>Keisuke Kubota</u> , Hiroo Furusawa, Takaya Abe, Toyohiro Hamaguchi, Naohiko Kanemura, Yoshinori Kitabatake, Toshiyuki Yoshida, Takahito Nakamura, Yuji Matsumura	2025.5
2	Contribution of Tibialis Anterior in Sit-to-Stand Motion: Implications for Its Role in Shifting the Center of Pressure Backward	共著	あり	○	Journal of functional morphology and kinesiology 10(2)	Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Hirata, <u>Keisuke Kubota</u> , Tsutomu Fujino	2025.5
3	Automated Analysis of Ultrasound Images to Measure Muscle-Tendon Junction Excursions by Using the Multiple Feature Point Tracking Algorithm	共著	あり	○	Ultrasonic imaging 47(3-4)	Taku Miyazawa, <u>Keisuke Kubota</u> , Hiroki Hanawa, Keisuke Hirata, Tatsuya Endo, Tsutomu Fujino, Katsuya Onitsuka, Moeka Yokoyama, Naohiko Kanemura	2025.7
4	Developing a Myoelectric-Driven Rehabilitation Robot for Acquiring Upper-Limb Muscle-Coordinated Activity Patterns in Patients with Post-Stroke Hemiplegia	共著	あり	○	IEEJ Journal of Industry Applications 14(4)	<u>Keisuke Kubota</u> , Hiroki Nishihara, Xueke Dang, Motoki Kuroo, Yukiko Mogi, Toshiaki Tsuji	2025.7
5	Does achieving gait symmetry during split-belt adaptation reflect corticospinal involvement in stroke survivors?	共著	あり	○	Journal of neurophysiology 134(3)	Keisuke Hirata, Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Kubota, Moeka Yokoyama, Naohiko Kanemura	2025.9
6	The medial gastrocnemius fascicle shortening and tendon lengthening in static standing are associated with age-related postural instability in older adults	共著	あり	○	Journal of applied physiology 139(5)	Taku Miyazawa, Hiroki Hanawa, <u>Keisuke Kubota</u> , Keisuke Hirata, Tsutomu Fujino, Naohiko Kanemura	2025.11

7	Muscle-Specific Neural Modulation in Biarticular Semitendinosus and Biceps Femoris during Isometric Torque Generation	共著	あり	○	Journal of neurophysiology	Keisuke Kubota, Taku Miyazawa, Keisuke Hirata, Naohiko Kanemura	2025.12
8	Development of an automated method for analyzing muscle dynamics across different morphologies based on B-mode ultrasound images	共著	あり	○	Journal of biomechanics	Taku Miyazawa, Fumiya Sasaki, Hiroki Hanawa, Keisuke Kubota, Keisuke Hirata, Tsutomu Fujino, Miho Arai, Naohiko Kanemura	2026.1
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	若年者・高齢者・変形性膝関節症者における筋活動のPreferred Directionの比較と運動制御戦略の検討	共同	日本基礎理学療法学会学術大会、大分		○久保田圭祐, 宮澤拓, 平田恵介, 塙大樹, 藤野努, 金村尚彦		2025.10
2	RGBDカメラによる関節モーメント推定を活用した膝OA運動モジュール解析	共同	日本運動器理学療法学会学術大会、大阪		○久保田圭祐, 青木治雄, 中村綾太, 山口純汰, 吉田健太郎, 金村尚彦		2025.11
3	Developing a Myoelectric-Driven Rehabilitation Robot for Acquiring Upper-Limb Muscle-Coordinated Activity Patterns in Patients with Post-Stroke Hemiplegia	共同	IEEJ International Workshop on Sensing, Actuation, Motion Control, and Optimization, Korea		○Keisuke Kubota, Hiroki Nishihara, Xueke Dang, Motoki Kuroo, Yukiko Mogi, Toshiaki Tsuji		2026.3
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	文部科学省 科学研究費補助金（若手研究）	軽度変形性膝関節症者が呈する歩行時の身体重心移動変化に関与する筋同時収縮の解明			研究代表者		2024-2026年
2	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	身体運動制御・身体運動学習の協調関係ならびに神経基盤の包括的理解とその応用			研究分担者		2024-2026年
3	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	多感覚統合に基づく道具のマニピュレーション			研究分担者		2025-2027年
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	障害予防学特論		2	加齢によって低下する運動・感覚機能に伴う運動制御機構の変化について概説し、リハビリテーションの観点からアプローチ方法を検討し、議論を行った.			
(2) 演習							
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	該当なし						
(3) 実習							
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	生理学実習(理学療法・作業療法)		8	実習課題のひとつを担当し、学生が主体的に実習できるように実施方法を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつような指導を心がけた.			

2	生理学実習(行動)		8	実習課題のひとつを担当し、学生が主体的に実習できるように実施方法を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心がけた。	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	該当なし		主指導	名	副指導 名
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	春日部市立看護専門学校（非常勤講師）	2025.4-2026.3	人体の構造と機能に関する講義(4コマ)		
2	人間総合科学大学（ゲスト講師）	2025.4-2026.3	理学療法学研究法に関する講義(1コマ)		
3	東京有明医療大学(非常勤講師)	2025.4-2026.3	リハビリテーション医学に関する講義(9コマ)		
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月
1	介護予防講演会 健康寿命を延ばすために ～フレイル予防の カギは地域活動にあり～	越谷市地域共生 部地域包括ケア 課	地域のつながりが健康を守る ～活動が続けた人に見えた健康状態の変化～		2025.7.31
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期	
1	該当なし				
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称	内容			年月
1	朝日新聞	越谷市「通いの場」の研究に対する取材			2025.10
(4) その他					
	項目	相手方等	内容		期間
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	該当なし				
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名	主催		受賞年月	
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名	特許番号		登録年月	
1	該当なし				
8. 特記事項					
1	該当なし				